

トカラ馬

トカラ馬は鹿児島に生息する小型の日本馬で、絶滅の危機に瀕している希少種である。鹿児島県では天然記念物に指定されている。

日本には 8 種類の在来馬がいる。8 つの品種はすべて、アジア大陸から持ち込まれた馬を起源としており、その歴史は古く、4 世紀ごろから始まったと言われている。それぞれの品種は、日本の特定の地域に関連している。「トカラ」という名前は、鹿児島県沖約 300 キロに浮かぶトカラ列島に由来する。トカラ列島には 1900 年頃に馬が持ち込まれ、やがて独特の品種に発展した。トカラ馬の平均的な体高は 114.5 センチ、体重は 198 キロである。毛色は一般的に暗褐色である。

トカラ馬はかつて島々に数多く生息し、薪を運んだりサトウキビを搾ったりするための家畜として使われていた。しかし、第二次世界大戦（1939～1945 年）でほぼ全滅した。1960 年代までに島に残ったのはわずか 32 頭だった。数頭は保護と繁殖のために鹿児島本土に移された。現在、トカラ馬は約 100 頭いる。指宿市では、開聞山麓自然公園にトカラ馬の群れが住み、昼間は自由に歩き回り、夜は囲いの中に戻る。